

市民の声

生涯学習市民開放プログラム を受講して

石田 傳右エ門

私とは何者か、どこから来たのか、そしてどこへ行くのか？

身近な人が他界をしていくなかで、「私達は何処へ行くのか」(佛教的考え方は別として)に一番興味をもっている反面、「どこから来るか」が一番身近に学べるのではないだろうか。「日本人はるかな旅」から「文明の交流史観」「日本古代国家の成立」等を学ばせていただくうちに、どんどん視野が広がり、限界が分からなくなっている現在です。

今さら何を書いても、釈迦に説法。授業中多くの学生が朝から居眠りをしているのを見て、もったいないな一と思うのです。

いやいや折角書いてみたら、のご好意に、そして参考文章までいただいたのだから前向きに、と思い!!

私たちが求めた生涯学習に、とても満足をしているのです。

大学へも高校へも行けなかった私ではあったが、恵まれて公務の仕事で、それなりに額に汗して(副業の農業でも)働き、定年を迎え、現在がある。職場では、大学を卒業した人達と共に仕事をし、それなりに上司とはなったが、いつも大学卒業生には尊敬の眼差しをもって接していたのだが…。これは、いったいなんなのだ!! いやいや、それはその時代の流れなのだから、良い点、良い人を標準にしてみればよいのだ。マイナスの面は捨て置こう。

多くの本を読み、多くの先生方の話を好んで拝聴し、新しきを求めている中で授業を受けることで、今までの知識が「点」であるならば、それらが「線」で結ばれていくことに、とても満足しています。特に教授が時折に私見を織り込みながら話をされることに、深く感動しています。

学生に対しては、このような文章になるから書きたくなかったのですが、これからの日本、よりよい世界を、新しい人間社会をつくってもらいたいからなのです。折角の授業時間を無駄にして欲しくないのです。そして、何か額に汗することを積極的行動で示して欲しいのです、損得なんて計算せずに。私達にとっては、懂れていた「大学」なのですから。